

環境教育とNGOについて

2004年3月23日

(社)日本環境教育フォーラム

専務理事 岡島 成行

環境教育とは？

- ・ 人間をはじめ地球上のあらゆる生物がこの先も生きていくために、地球環境を維持していくための教育
- ・ 環境を総合的にとらえ、体験的に学習すること

環境教育の具体的目標

- 1 関心：地球上でおきてる様々な環境問題に気づき、関心を持つようになること。
- 2 知識：地球上でおきてる様々な環境問題について、正しく理解すること。また、基本的な知識を身につけること。
- 3 態度：今地球環境はどうなっているのかを敏感に感じ取り、環境問題の解決に向けた一歩を踏み出せるようになること。
- 4 技能：環境問題を解決するための具体的な解決策の提案、またそれを実行出来る能力を身につけること。
- 5 評価能力：環境問題の解決を目的とした行動に対して、様々な立場や角度から評価すること。
- 6 参加：環境問題により深く関わるために、様々な環境問題を解決するための行動に参加すること。

日本の環境教育の推移

1960年代

大企業の急速な経営拡大
利益重視の経済発展

公害問題

公害教育

1970年代

大規模な土地利用計画

自然を無視した開発による
野生動物などの生息の場の消滅

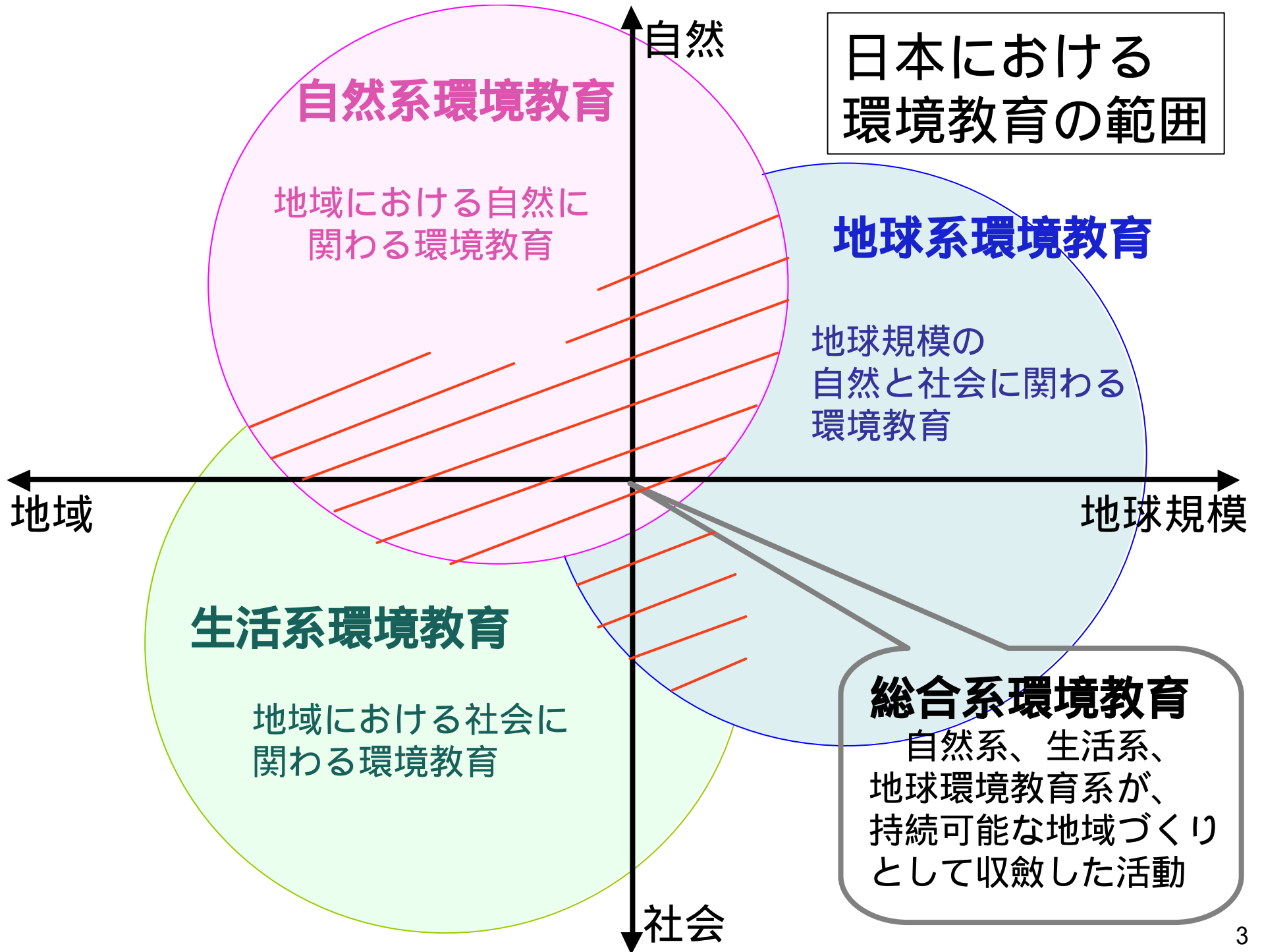
自然保護教育

地球レベルでの持続可能な社会の構築の必要性

環境教育

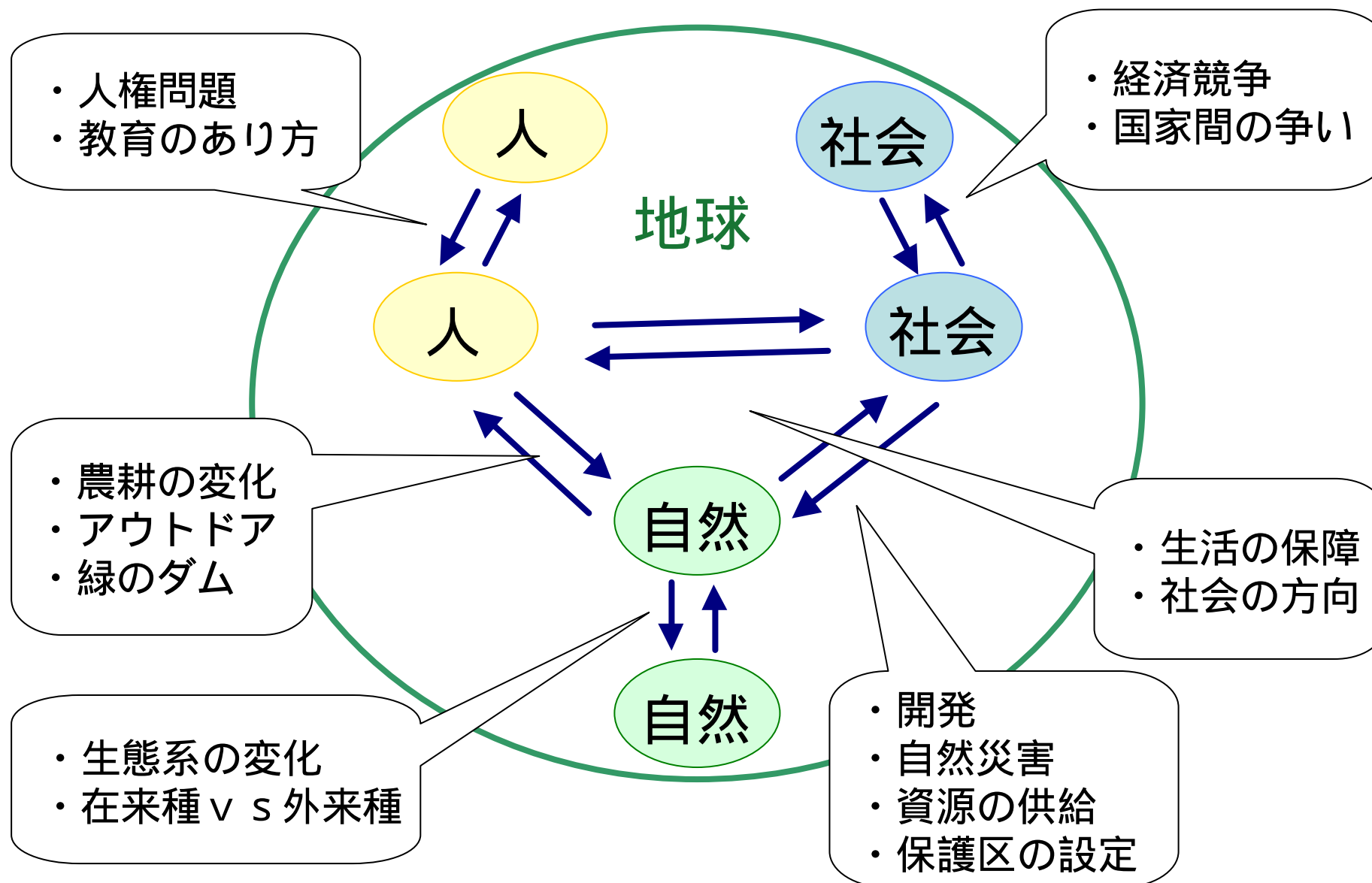
「人と人、人と社会、人と自然」などの
あらゆる関係（つながり）を、
地域から地球規模にいたるあらゆる場で
改善することを意図した活動

日本における 環境教育の範囲



環境教育 概念図

目標：それぞれのつながり（矢印）を改善すること



日本の環境教育活動

自然系環境教育

- ・アウトドア活動
- ・ネイチャーゲーム
- ・自然学校
- ・自然保護教育
- ・農業体験 など

生活系環境教育

- ・リサイクル教育
- ・消費者教育
- ・エネルギー教育
- ・環境文化創世教育
- ・歴史・文化教育
- ・ジェンダー教育
- ・人権教育 など

地球系環境教育

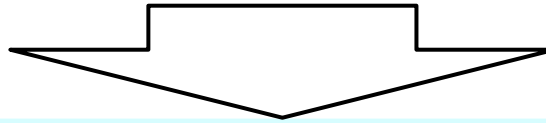
- ・地球環境問題
- ・開発教育
- ・平和教育
- ・人口教育
- ・国際理解教育 など

総合系環境教育

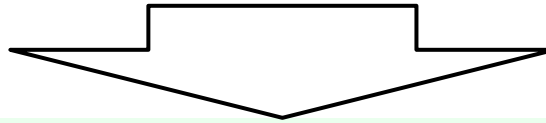
- ・総合学習
- ・環境自治体
- ・エコミュージアム
- ・グラウンドワーク
- ・ローカルアジェンダ21
- ・エコツーリズム など

環境教育の内容の変化

生物学や地理学をもとにした、
自然保護や生態系のバランスについての教育
地域の環境をテーマとして扱う



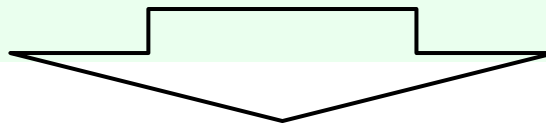
扱うテーマの範囲が環境汚染や開発問題などに拡大



環境のみならず、持続可能性に関わるあらゆる課題

開発 貧困 資源 人口 ジェンダー
保健衛生 平和 人権 など

をも包含した総合的な環境教育



持続可能な開発のための教育へ

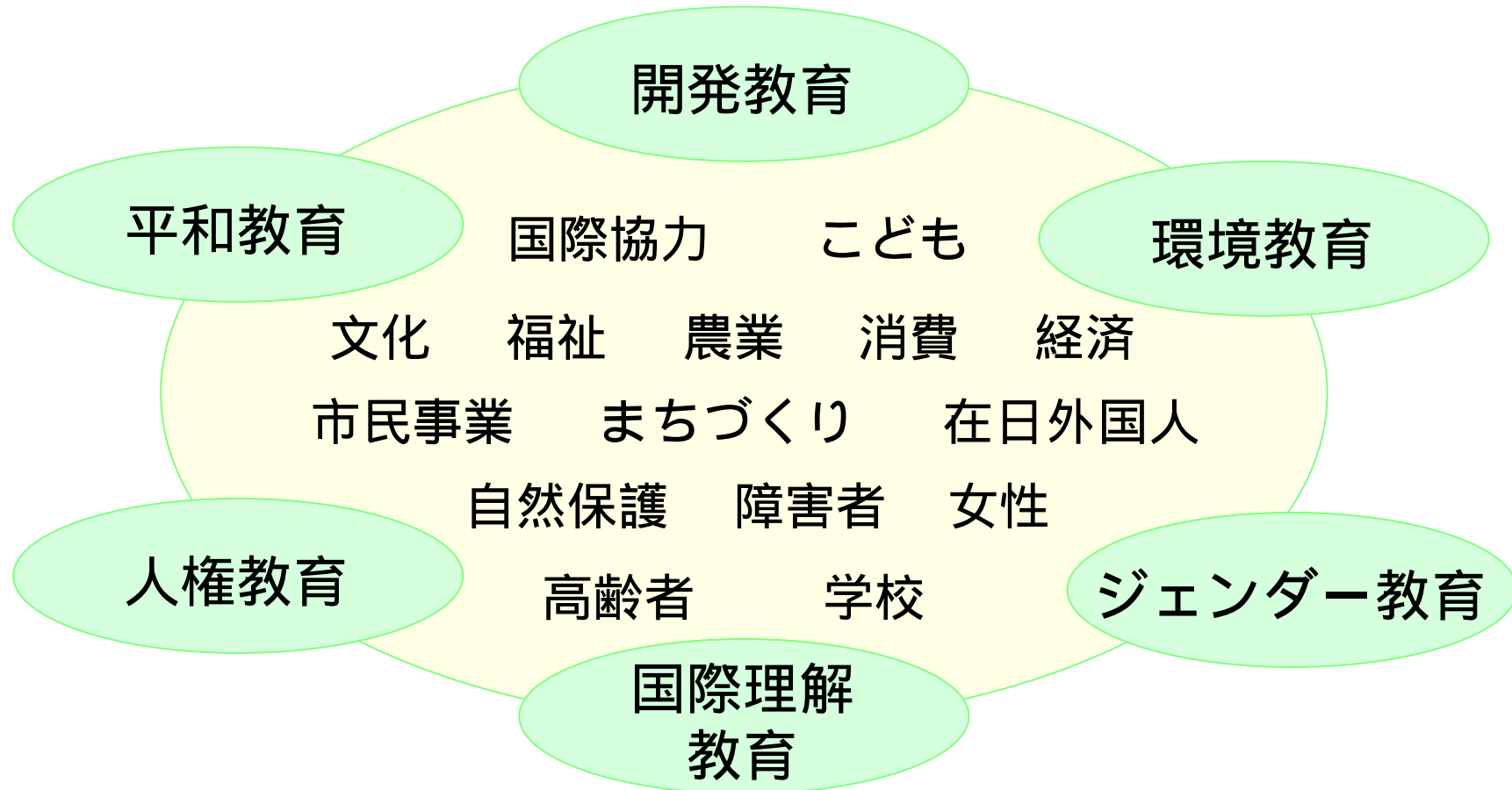
持続可能な開発のための教育

Education for Sustainable Development 「E S D」

- ・ 持続可能な開発のための教育は、
「共生と公正を基本とした循環型の社会づくり」
を目的とした教育学習活動である。
- ・ 持続可能な開発のための教育の目標は
「公正」「共生」「循環性」
を実現する社会づくりに
「参加」
することができるような能力や態度を養うことである。

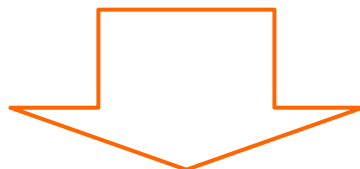
持続可能な開発のための教育

概念図



「環境についての総合学習」「持続可能性のための総合学習」

~~環境に関する「知識」を覚えることを目的とする教育~~



環境やそれに関連する事項をテーマにして

- ・ 学習者に公的な気づきを促しつつ、
- ・ 学習者相互の「共同性」を培い、
- ・ 学習者がお互いに「協働（collaboration）」しながら課題を解決する力を育成する。

子供が普段生活している空間は家や学校を中心とした周囲半径1km程度。この生活空間での課題を探してその解決策を探ることは、それ自体環境教育でありまちづくりにつながる。

- ・ 自然とひとにやさしい循環型の地域社会づくり
- ・ 国籍・民族・性別・年齢・障害のあるなしに関わらず「共に生きる」ことができる社会づくり

etc

「持続可能な開発のための教育」を推進していくための課題

- ・ 日本の生産と消費を持続可能に改める
- ・ 持続可能性の視点から様々な活動を総合化する
- ・ 環境教育と他の教育課題との連携を図る
- ・ 持続可能な社会のビジョンを描く
- ・ 地域と世界を結ぶ

ESD まとめ

- 1 . 持続可能な開発のための教育は、
環境教育、開発教育、人権・平和教育の3つの柱からなる。
- 2 . 持続可能な開発のための教育は、「共生と公正を基本とした循環型の社会づくり」を目的とした教育学習活動である。
- 3 . 持続可能な開発のための教育の目標は「公正」「共生」「循環性」を実現する社会づくりに「参加」することができるような能力や態度を養うことである。

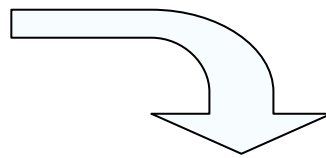
「持続可能な開発のための教育」を推進していくための課題

- ・ 日本の生産と消費を持続可能に改める
- ・ 持続可能性の視点から様々な活動を総合化する
- ・ 環境教育と他の教育課題との連携を図る
- ・ 持続可能な社会のビジョンを描く
- ・ 地域と世界を結ぶ

社会システムの再構築

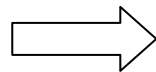
・ 新技術 → 環境への負荷の軽減など

・ 人々の意識変革

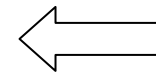


持続可能な開発のための教育

先進国



共通の概念



発展途上国